

神戸大学医学部附属病院 広報誌

H19.7.10 NO.2

楠 だより 季刊

発行責任者 : 病院長

編 集 : 神戸大学医学部附属病院広報委員会



今月の花：ナツツバキ

お知らせ

がん診療連携拠点病院としての神戸大学病院の役割

腫瘍内科 南 博信

「がん対策基本法」が本年4月1日に施行され、全省庁、医療従事者、学会、がん患者さまを含む国民が一体となって、安心かつ納得のできるがん医療を受けられる社会を築くことが法律で定められました。そのための具体的な計画として「がん対策推進基本計画」が6月15日に閣議決定され、がんの死亡率を20%減少させるという目標に向かって実行に移されていきます。その中で、地域のがん医療の中心的役割を果たすべき病院として、審査で厳しい基準を満たした病院が「がん診療連携拠点病院」として指定されます。神戸大学病院も「がん診療連携拠点病院」の指定を受け、今後ますます神戸地区におけるがん医療の中核的役割を果たしていくこととなります。

日本は手術や内視鏡の技術は世界のどの国にも劣らず優秀ですが、放射線治療や抗がん剤を使った化学療法は欧米に比

べて遅れていると言われていました。そこで「がん対策基本計画」では、放射線療法や化学療法を重点的に推進することになります。すでに神戸大学病院では放射線療法も化学療法も行っていますが、さらに、専門的でより良い化学療法を提供するために、さまざまな臓器のがんの化学療法を専門に行う部門として腫瘍内科が新設されました。6月に国立がんセンター東病院より私が赴任し、現在、診療体制を整えているところです。

がんの診療では、痛みなどの苦痛をコントロールし生活の質を向上させることが大切です。神戸大学病院ではすでに内科医、麻酔科医、薬剤師、看護師などからなる緩和ケアチームが活躍しています。身体の症状がない早期のがんでも心の苦痛は伴います。治療の初期段階から緩和ケアを行えるように体制を充実させます。また、生活の質を高めるためには外来で

治療を行うことが大切です。そのため、緩和ケアも入院から外来へ切れ目の無いサービスを提供していく体制を整えていきます。地域の医療機関と機能を分担し合いながら、患者さまができるだけ普段の生活を続けながらがんの治療を受けていただけるようにします。

「がん診療連携拠点病院」ではがんに関する国立がんセンターがん対策情報センターと協力しながら情報も提供します。がんについて説明したパンフレットもお配りしていますので、ご利用ください。また、セカンドオピニオンや医学的相談が必要な場合には担当部署をご紹介することも可能ですので、お気軽にご相談下さい。

がんの治療成績を良くするためには、

治療成績の実態を把握し科学的情報に基づいた医療が必要ですが、今まで日本にはがんの実態を把握するきちんとした制度がありませんでした。そこで、各々のがん患者さまのデータを全国から集めて解析する「がん登録」が開始されました。「がん診療連携拠点病院」ではこの「がん登録」を行う必要があります。神戸大学病院でも、がん患者さまの個人情報を十分保護しながらがん登録に協力していきますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、神戸大学病院は「がん診療連携拠点病院」として、より良いがん医療を提供するように努力いたします。皆様のご意見、ご要望を病院までお寄せいただければ幸いです。

お願い

敷地内禁煙

副病院長・看護部長 大島 敏子

楠だよりを御覧の皆様こんにちは。

患者サービス担当の副院長をしている、看護部長の大島です。

今、私は大変困っています。それは喫煙習慣を持つ方達によって、敷地内禁煙が守られないことです。病院建物の周辺には、タバコの吸殻が散乱し、拾っても拾っても無くなることはありません。花の植え込み奥深くに捨てられていることも多く、見つけると哀しい気持ちになります。花壇の花は、無償で労働提供して下さっているボランティアさんによっ

て、植えられているからです。5月24日小児科医師から届いたメモです。『病院の東側玄関、つまりドトールの裏側が禁煙のはずなのに、タバコ吸いまくりになっており、いろいろしてもなかなかうまくいってないのも承知しておりますが、実は、この場所のすぐ2階が院内学級になっております。つまり、喫煙者のために、院内学級の生徒達はけむたくて、教室の窓を開けられない状態が続いております。禁煙について、職員にも患者にももっと啓蒙する必要があると思うのです

が、子ども達がこういう形で被害を受けていることを、多くの方に知っていただきたくご連絡をさしあげた次第です。』病気の子供たちに、大倉山の木々の息吹を含んだ自然の風を提供したい医師の気持ちです。

又、呼吸器科の患者さまからもご意見をいただきました。『病院玄関で喫煙している方がいます。私はタバコの煙で咳が誘発されるので、数人の方が吸っている横を通り過ぎるのが辛い。呼吸器が悪いということは、早足をするのも困難で、結局何回か息を吸い込まなければならぬ羽目になる。病気を治しに来て、返って具合が悪くなる。禁煙の館内放送をしているのに、しっかり守らせてほしい。』

もうお一方からは、『病院から乗ったタクシーのタバコ臭いこと、具合が更に悪くなる。せめて病院に乗り入れるタクシー会社は、禁煙マークをつけさせる位の配慮をしてみてはどうか』耳の痛い、しかも最もご意見をいただき、患者サービス向上委員会では、本腰を入れて禁煙に取り組む覚悟をしました。

さしあたりタクシー協会には、禁煙マークの明示を申し入れる準備をしています。当院が敷地内禁煙を決めたのは、平成16年のことです。吸殻やごみがないようにすることで、喫煙しにくい環境を創り出し、維持することに努めてきました。喫煙者に直接働きかけることにより、病院の禁煙に対する考え方を伝える機会になるとも考えています。実際、喫煙者に直接ご注意申し上げ、今のところ感情的な対応を受けることもあり、今後、禁煙

パトロール者への逆被害につながる可能性も考え、喫煙者への対応を事前にお知らせしておくことが必要と考え筆を取りました。

アスベストにはあんなに敏感な人々が、タバコの副流煙を意識しないのは何故なのでしょう？タバコは、合法的なドラッグ常用者同様、ニコチン依存症と言われ病気に扱われる時代になりました。嘗ては国が売っていたものですが、今は、健康を損なう有害なものとして、広く知らされても来ています。どうぞ、喫煙からの脱出をはかるお手伝いをさせてください。禁煙のためのプログラムも準備しておりますし、方法は沢山あるのです。支援者もおります。是非一度、禁煙外来に歩を向けてくださることを、期待しております。

禁煙教室

第2, 4週火曜日午後2時より

(木曜日は不定期であります)

内科外来にて予約(無料)

禁煙外来 禁煙教室終了後(保険診療可)

担当:呼吸器内科 西村善博、玉尾夏実、

内科外来看護師

(拡充の予定あり)

◆ 病院の基本理念 ◆

1. 患者中心の医療の実践
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と推進
4. 災害救急医療の拠点活動
5. 医療を通じての国際貢献

診療最前線

内視鏡的粘膜下層剥離術

消化器内科 東 健

消化器内視鏡機器の開発に伴い、早期消化管癌（食道、胃、大腸）の内視鏡的治療は日々進歩してきています。

これまでは、内視鏡的ポリープ切除術や内視鏡的粘膜切除術が行われてきましたが、最近では、更に、正確かつ大きな病変の切除が可能な内視鏡的粘膜下層剥離術へと発展してきました。

消化器内科では食道、胃、大腸の早期粘膜癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術による、低侵襲的な内視鏡治療を、これまでに300例を超える症例で行い良好な結果を得、国内で指導的施設として高度先進的治療を進めています。

早期胃癌における適応基準

日本胃癌学会は胃癌治療ガイドラインを作成し、胃癌の治療法についての適正な適応を示し、胃癌治療における施設間差を少なくし、治療の安全性と治療成績の向上を図っています。このガイドラインを基にして、当科では早期胃癌の内視鏡的治療術前適応として、分化型腺癌、明らかな粘膜下浸潤所見の無いもの、潰瘍形成の無いものは大きさの制限なし、潰瘍形成のあるものは3 cm 以下としています。

手順

図1 a は胃内に広い平坦な隆起病変を示しており、色素撒布により病変の境界が明らかに認められます（図1 b）。



図1 a

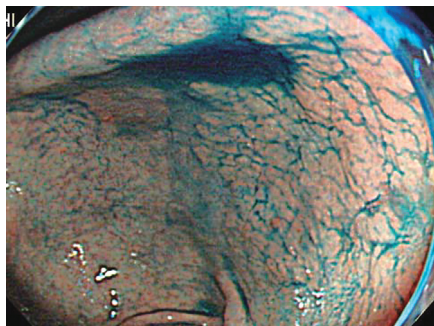


図1 b

病変周囲をマーキングし（図1 c）、粘膜下に色素を含んだ生理食塩水を注入し病変を隆起させ、マーキング周囲を粘膜切開し（図1 d）、内視鏡的に粘膜下層を剥離していきます（図2 a）。図2

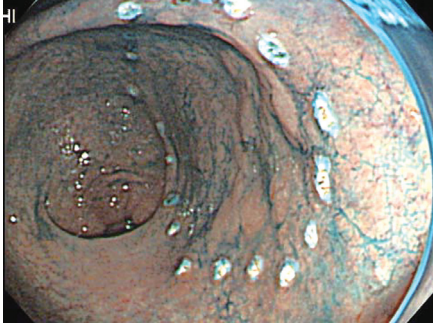


図 1 c

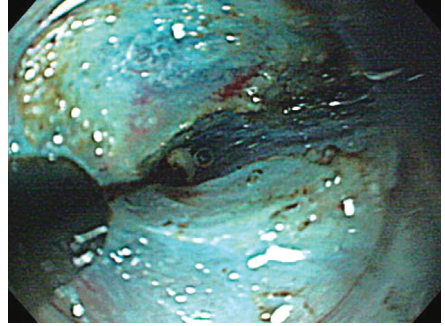


図 2 a

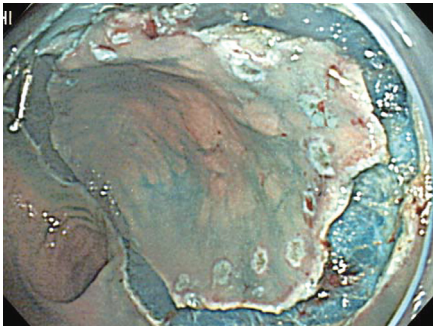


図 1 d

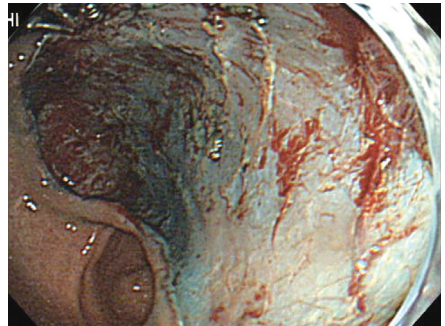


図 2 b

bは病変が剥離された後の胃内腔を示し、
図 2 c は一括切除された約 7 cm の病変
を示しています（黄色枠内が癌の存在部
位を示す）。

内視鏡検査・治療は目覚ましい勢いで高
度先進化してきています。神戸大学医学
部消化器内科では、この時代の流れに沿
って、神戸内視鏡機器開発・教育センタ
ーを昨年 10 月に設立し、神戸発の新しい
内視鏡機器の開発研究を行うとともに、
内視鏡治療教育を行い、高度先進化し
た内視鏡治療をより安全に普及させるこ
とに貢献しています。

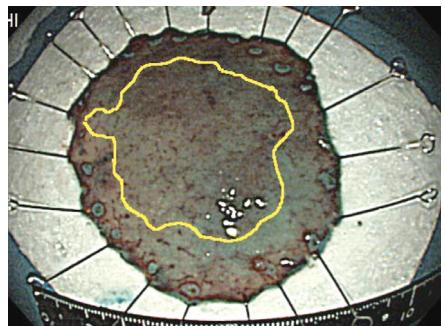


図 2 c



楠の花

ご案内

外来看護相談室

神戸大学病院に通院されている患者さまが、治療を受けながら安心して日常生活を送っていただけるように生活指導や健康相談を看護師が行っています。

外来看護相談室は予約制です。ご希望の患者さまは外来または病棟の看護師および主治医にお気軽にご相談ください。なお、入院中の患者さまについては、早めに病棟看護師にご相談ください。退院後も治療・処置を継続するために、担当看護師が退院までに病室に訪問をいたします。

<生活指導・健康相談の内容>

日常生活の調整が必要な糖尿病、心不全、呼吸不全、腎不全患者さまに対して、日常生活のコントロールがご自身でできるように生活支援をおこないます。インスリンの自己注射、在宅酸素管理、ストーマ管理、胃ろうや鼻腔栄養管理など、患者さまやご家族が管理できるように器具の取り扱いや生活指導をおこないます。



外来看護相談室のご案内

日常生活調整が必要な患者さま

糖尿病 高血圧 腎不全 心不全 虚血性心疾患
高脂血症 移植後 がん患者さまなど

生活習慣病に対する指導を行い自己管理が出来るように継続的に関わります
療養に伴う不安などの対応とアドバイスを行います

医療依存度の高い患者さま

在宅酸素療法 インスリン自己注射
ストマケア 自己導尿 経管栄養
気管カニューレ挿入 褥瘡(床ずれ)処置
中心静脈栄養 在宅人工呼吸器 など
在宅療養指導を行います

福祉サービスが必要な患者さま

介護保険の利用方法や
社会資源の利用方法などの
説明を行います

お申し込みは看護師にお尋ねください。

神戸大学病院 患者支援センター 外来看護相談室



外来看護相談室

開催日時：月曜日～金曜日
9時～12時

場 所：中央診療棟2階
中央採血室に行く途中のスロープ
を下って左手にあります。

担 当 者：病棟・外来看護師（交替制）
専門の看護師

- ・糖尿病
- ・がん性疼痛
- ・呼吸療法
- ・心臓リハビリ
- ・創傷・ストーマ・失禁

申込方法：予約制ですので、看護師または主治医に直接お申し出ください。

料 金：ご相談内容により、無料または一部保険診療となります。

病院内 案内図

1階



「最新の医療とやさしい環境をあなたに」
 をコンセプトに本院は病院敷地内・
 全館全面禁煙になっております。

2階

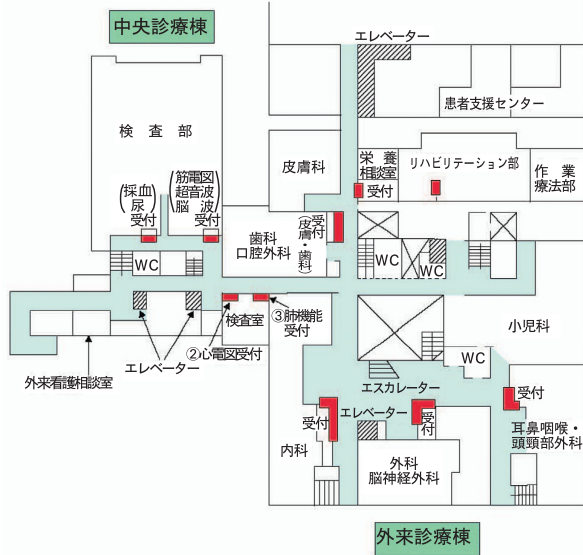
- * 循環器内科
- * 腎臓内科
- * 呼吸器内科
- * 免疫内科
- * 消化器内科
- * 糖尿病・内分泌内科
- * 老年内科
- * 神経内科
- * 血液内科
- * 漢方内科

は内科受付にお越しください。

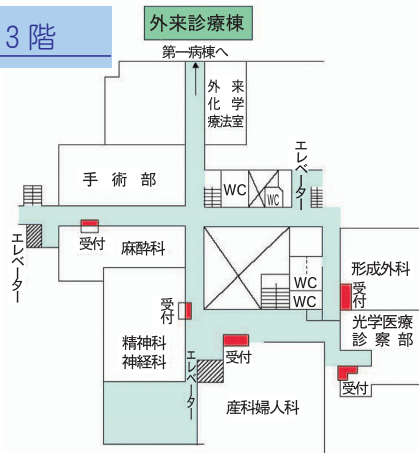
- * 食道胃腸外科 (乳腺含む)
- * 肝胆膵外科
- * 心臓血管外科
- * 呼吸器外科
- * 小児外科
- * 脳神経外科

は外科脳神経外科受付にお越しください。

遺伝子診療部は小児科受付にお越しください。



3階



◆ 神戸大学医学部附属病院 ◆

〒650-0017
 神戸市中央区楠町7丁目5番2号
 電話〔078〕382-5111 (代表)
 ホームページ
<http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/>
 ご意見、ご感想をお待ちしております。
 FAX〔078〕382-5050